

自閉症児者への支援プログラム トレーニングセミナー

一般社団法人 Piece of happiness

〒021-0901 岩手県一関市真柴字中屋敷 90

助成事業の概要

実施：2025年9月20日・21日、福島県福島市にて
2日間にわたって開催されました。

内容：自閉症支援に関わる支援者、療育スタッフを
対象に、TEACCH研究会東北支部と自閉症eサー
ビスの専門家3名の協力を得て実施された。

具体的な活動：セミナーでは、自閉症に関する基
礎知識と最新の支援方法に関する講義、個々の特
性に応じた環境調整の実践演習が行われました。
参加者は2チームに分かれてモデルクラスでの支
援を実践し、その結果から支援プランを作成・分
析。また、グループディスカッションを通じて、具
体的な支援ケースの課題や気づきを共有し、チー
ムで統一的な支援アプローチを確立するための議
論を深めました。

1日目

オープニングセッション：セミナーの趣旨説明と
参加者同士の自己紹介・モデル情報の確認。講師よ
り自閉症に関する基礎知識の確認と最新の自閉症
支援の在り方についての講義を受けた。

グループディスカッション1：クラスルームの
セッティング、各チームの評価課題の選定・使用す
るスケジュールやワークシステムのセッティン
グ、評価セッションの準備。

実践1:モデル受け入れと家族からの引継ぎ、モデ
ルワークセッション(実際に支援を実践、評価を行
ないました。)評価のまとめと支援プランの作成を

講師と一緒に行ない翌日の演習準備をしました。

2日目

講師より効果的な支援方法と環境調整の重要性に
ついての講義を受けた。

実践2:モデル受け入れと家族からの引継ぎ、モデ
ルワークセッション(実際に支援を実践、評価を行
う。)課題の実施と再構造化。

グループディスカッション2:実践結果を基に、そ
の子の特性と学習スタイルをまとめました。

2日間のまとめを話し合い最後に全体でチームご
とに発表。講師より総評を受け終了。

事業の成果

事業の成果として、自閉症児者への支援を目的と
した本セミナーは、当初の目的を大きく上回る多
岐にわたる効果をもたらしました。

まず、セミナー参加者一人ひとりの支援スキルが
大幅に向上しました。自閉症に関する体系的な知
識と、個々の特性に応じた具体的な支援方法を習
得したことで、参加者は支援への自信を深め、行動
障害の予防や、子供たちの安心感向上に繋がる支
援を提供できるようになりました。特に、環境調
整や効果的な教材作成といった実践的なスキル
は、日々の支援現場において即座に活用され、子
供たちの成長と発達を促進する大きな要因とな
ると思われます。

支援現場と地域社会への波及効果…セミナーで

得られた知識とスキルは、個人の枠を超え、チーム全体に広まりました。参加者は自身の職場で学んだアプローチを共有し、チームとしての統一的な支援体制を構築する上で中心的役割を担うようになりました。これにより、各参加者が自分の職場において実践することで支援の属人化が解消され、組織全体の支援レベルが底上げされることとされます。

さらに、セミナー参加者同士のつながりによって様々な地域の子供たちを支える支援のネットワークが構築されたことも大きな成果と考えます。

持続可能な支援体制の構築・・・セミナーは一度きりの学びで終わるのではなく、継続的な改善サイクルを生み出すきっかけとなります。支援者は学んだ内容を日々の実践で試行し、その結果を自身の職場において共有することで、常に新しいアプローチを模索する姿勢を身につけることができます。これにより、支援の質の継続的な向上が実現し、支援者自身のスキル向上と相まって、より持続可能で質の高い支援体制が構築される結果となります。

総じて、本事業は自閉症児者への理解と支援の質を向上させ、共生社会の実現を力強く推進する、非常に意義深い成果をもたらしたと思います。これは、助成金の有効性が単なる事業の実施に留まらず、社会全体の好循環を生み出す原動力となることを証明するものになると思います。

成果の広報、公表

この度のセミナーは、単なる知識の伝達に留まらず、自閉症児者への支援を実践的に向上させるという大きな成果をもたらしました。この貴重な成果を広く社会に発信し、今後の支援体制の構築に繋げるため、以下の広報・公表活動を実施いたします。

まず、セミナーの実施内容、参加者の声、そして具

体的な成果をまとめた報告書を作成し、当法人のウェブサイト (<https://afterschool-iwate-jimdofree.com/>) にて一般公開いたします。併せて、TEACCH研究会東北支部などの既存SNSアカウントにおいても積極的に情報を発信し、より多くの方々へ成果を届けたいと思います。

さらに、参加者の代表者には、TEACCH研究会東北支部の実践報告会に登壇していただき、セミナーで習得した支援方法が実際の現場でどのように活かされているか、具体的な事例を紹介していただきます。これは、机上での学びが実効性のある支援へと繋がったプロセスを可視化する貴重な機会となります。

これらの多角的な活動を通じて、セミナーの成果を明確に提示し、今後の支援体制構築に向けた建設的な議論を喚起するとともに、自閉症支援への社会的な関心を一層高めたいと考えております。

今後の展開

今後の展開として、今回のセミナー参加者を対象にフォローアップグループを立ち上げ、定期的にオンライン勉強会を開催する予定です。セミナーで学んだ内容が現場でどのように活かされているかを共有し、実践的な課題にも取り組みながら、支援者のさらなるスキル向上を目指します。また、来年度以降も継続してセミナーを開催し、より多くの支援者が自閉症児者への正しい理解と支援方法を身につけられる機会を提供したいと考えています。今回は幼児2名のモデルであったが、来年度は成人の支援している支援者もいるため、モデルの年齢も成人と子どもという感じで広げていきたいと考えています。支援者が適切な知識と支援技術を習得することで、誤った対応が減少し、自閉症児者が安心して暮らせる社会の実現につながると信じています。今後は別の地域においても開催し、支援の質と広がりを高めていきたい

と考えています。さらに、支援者同士が継続的に学び合えるネットワークを構築し、孤立することなく互いに支え合える環境づくりにも力を入れています。